

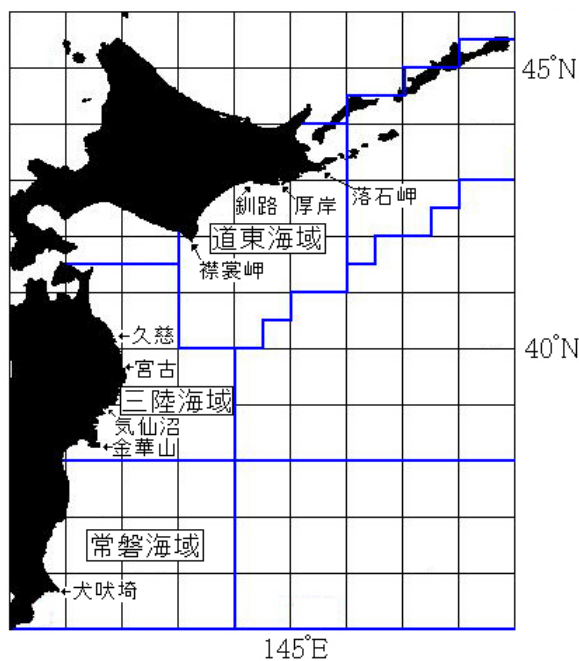
## 平成27年度 第7回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた結果 －

### 今後の見通し(2015年11月中旬～12月下旬)のポイント

#### 来遊量

- ・道東海域は終漁。
- ・三陸海域では、来遊量は減少する。11月中旬～下旬は低位水準となり、12月上旬で終漁となる。
- ・常磐海域では、来遊量は増加して11月中旬は中位水準となる。11月下旬以降は減少する。



海域の名称

### 問い合わせ先

一般社団法人漁業情報サービスセンター 漁海況部  
担当：渡邊、松尾  
電話：03-5547-6889、ファックス：03-5547-6881  
当資料のホームページ掲載先URL  
<http://www.jafic.or.jp/gyokaikyo/>

国立研究開発法人水産総合研究センター  
当資料のホームページ掲載先URL  
<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

# 平成27年度 第7回 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

## 1. 今後の見通し

予測期間：2015年11月中旬から12月下旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

### 1) 道東海域

#### (1) 来遊量

来遊量は少なく、終漁となる。

#### (2) 漁場

漁場は形成されない。

### 2) 三陸海域

#### (1) 来遊量

来遊量は減少し、11月中旬～下旬は低位水準となる。12月上旬は、断続的となり、終漁となる。

#### (2) 漁場

11月中旬～12月上旬は、三陸南部が漁場となる。12月中旬～下旬は、漁場は形成されない。

### 3) 常磐海域

#### (1) 来遊量

来遊量は増加し、11月中旬は中位水準となる。11月下旬は中位水準であるが、来遊量は減少し、12月上旬は低位水準となる。12月中旬は断続的となり、終漁となる。

#### (2) 漁場

11月中旬～12月上旬は常磐北部～南部、12月中旬は常磐南部が漁場となる。12月下旬は、漁場は形成されない。

## 2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向					
	漁 場					
三陸海域	来遊量					
	動向	低位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	南部	南部	南部		
常磐海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位減少	低位減少	断続的	
	漁 場	北部～南部	北部～南部	北部～南部	南部	

### 3. 漁況の経過概要（10月下旬）

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した道東海域における来遊量の水準は、前旬や前年を下回り、低位水準であった。道東海域よりも南側（三陸海域よりも東側）における来遊量の水準は、前旬を下回った。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、道東海域における来遊量は、期後半に減少した。また道東海域よりも南側における来遊量は、期後半に増加した。

##### (2) 漁場

道東海域では、厚岸～釧路沖が漁場となった。厚岸～釧路沖の10海里付近（13℃）では、小型船が数隻操業し、2～20トン程度漁獲した。

また道東海域よりも南側の落石南東220～250海里付近（8～14℃）では、連日大型船5～40隻程度と小型船数隻～10隻程度操業した。大型船は1～125トン、小型船は1～30トン漁獲した。

##### (3) 魚体

道東海域では、体長25～26cmモードの中型魚主体で、体長29cm以上の大型魚は1～2割程度であった。

道東海域よりも南側の落石南東220～250海里付近では、体長30cmモードの大型魚主体で、中型以下の魚が1～3割前後混じった。大型魚の体重は120～130g台が主体であった。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した三陸海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、前年を下回る中位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、三陸海域は、期半ばに来遊量が増加し、その後減少した。

##### (2) 漁場

三陸海域では、宮古～金華山沖が漁場となった。宮古東10～60海里～大船渡東10～60海里～金華山南10海里付近（15～19℃）では、大型船が5～20隻程度と小型船が多数操業した。大型船で数トン～130トン、小型船で数トン～30トン程度漁獲した。

##### (3) 魚体

三陸海域では、体長29～30cmモードの大型魚主体であった。

#### 3) 常磐海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した常磐海域における来遊量の水準は、前旬を上回ったが、前年を下回る低位水準であった。日別CPUE（1網当たりの漁獲量）から判断すると、常磐海域は、期後半に来遊量が増加した。

##### (2) 漁場

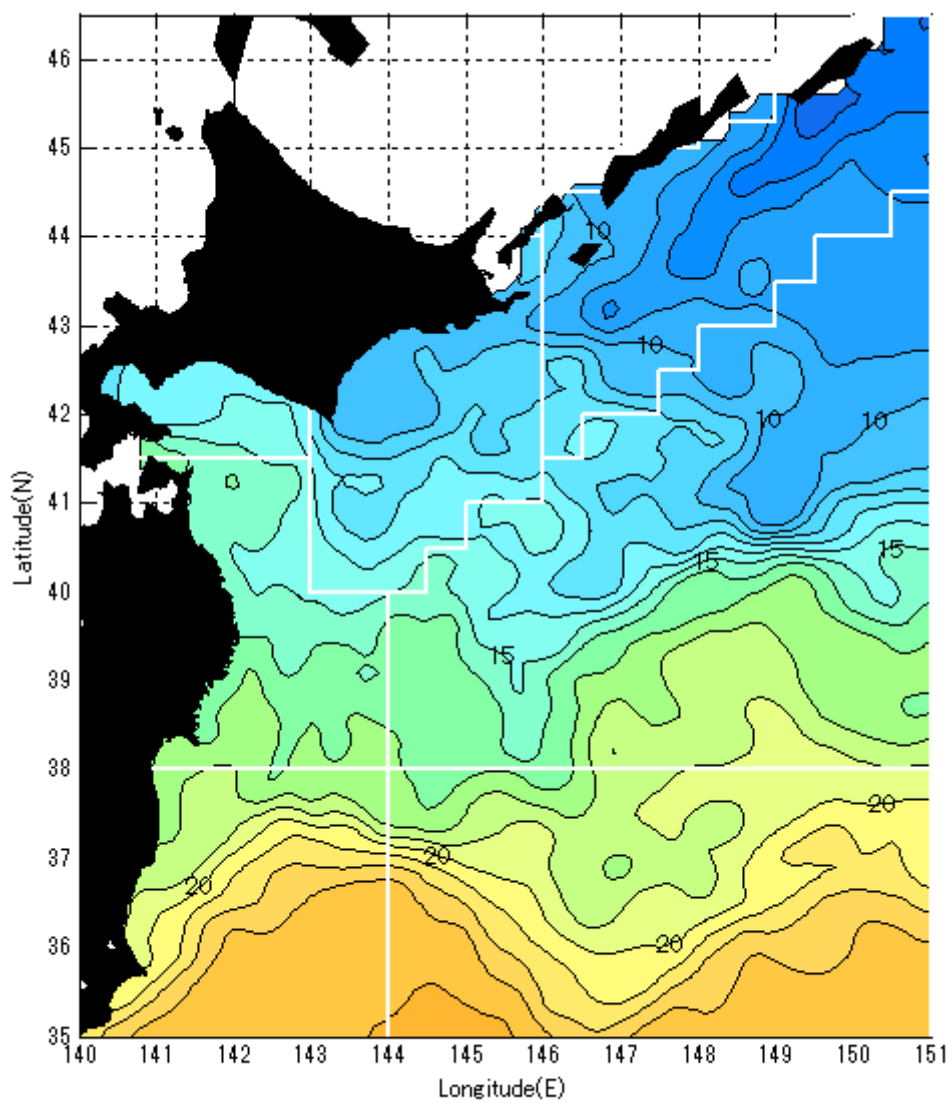
常磐海域では、金華山～小名浜沖が漁場となった。金華山南～小名浜東沖の20～40海里付近（16～17℃）では、28日夜以降、大型船が1～7隻程度と小型船が十数隻操業した。大型船で2～20トン、小型船で数トン～20トン程度漁獲した。

##### (3) 魚体

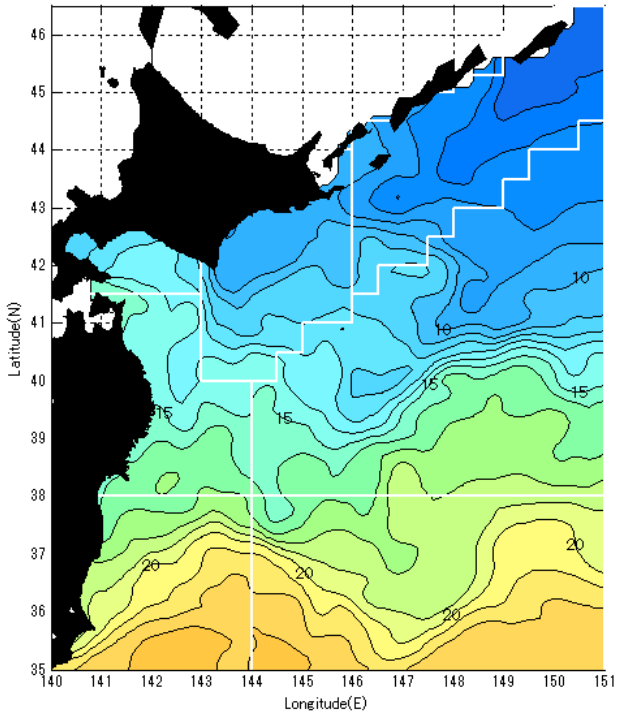
常磐海域では、体長29～30cmモードの大型魚主体であった。

#### 4. 予測水温分布図

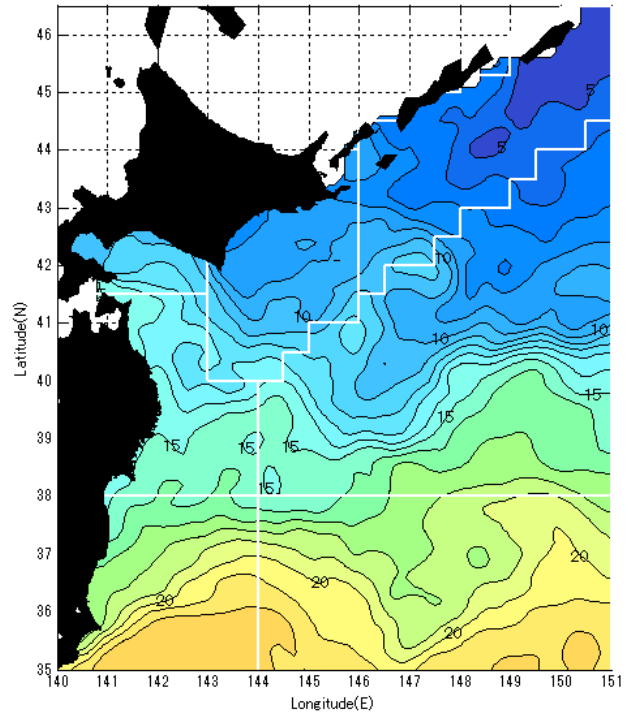
11月中旬予測表面水温分布図



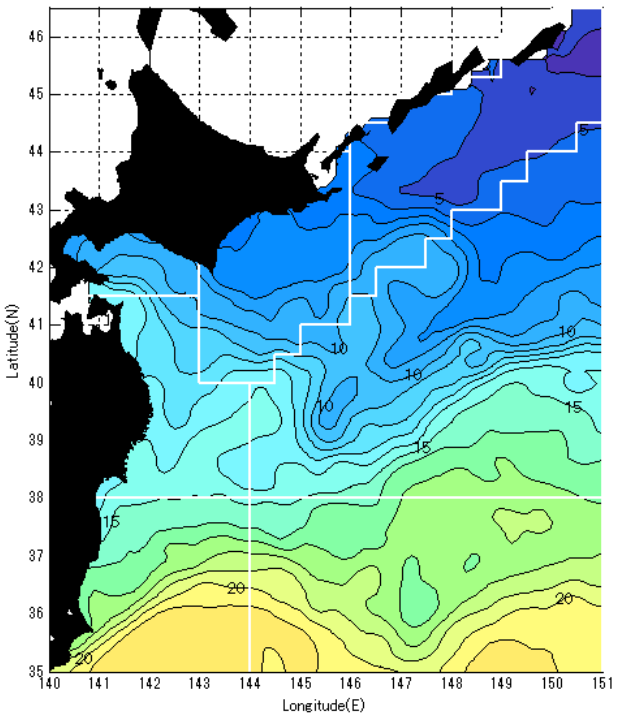
11月下旬予測表面水温分布図



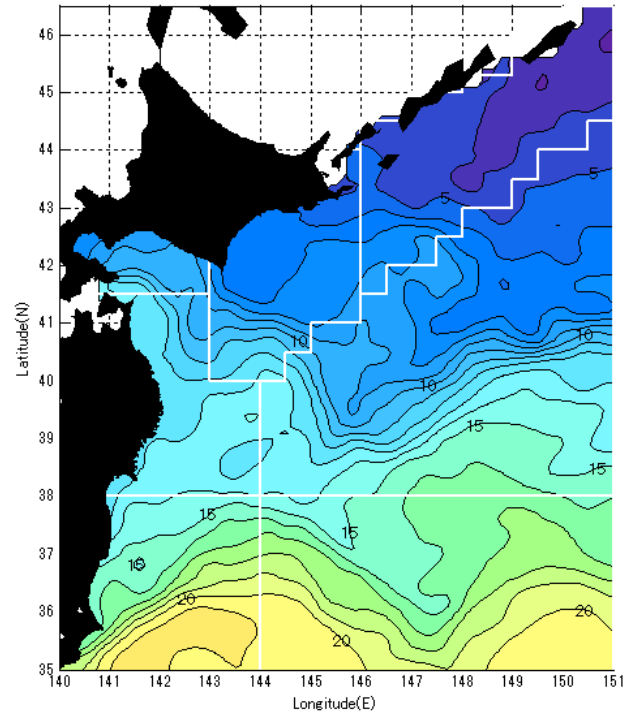
12月上旬予測表面水温分布図



12月中旬予測表面水温分布図



12月下旬予測表面水温分布図



## 参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産試験場</p>	<p>茨城県水産試験場</p> <p>千葉県水産総合研究センター</p> <p>国立研究開発法人 水産総合研究センター 東北区水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関) 一般社団法人 漁業情報サービスセンター</p>
---	---